

## 令和6年度全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 門司海青 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

##### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

###### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

##### (2) 児童質問紙調査

###### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

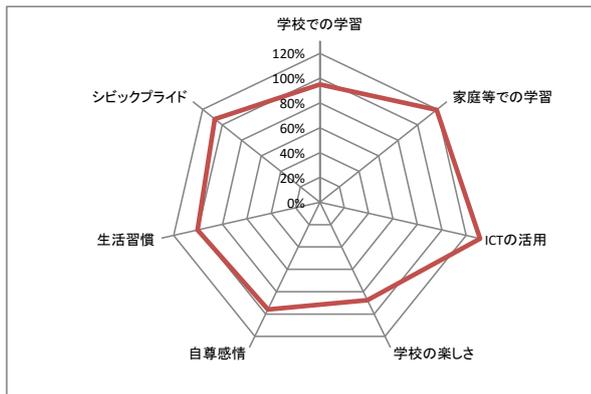
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することや自分の考えが伝わるような書き表し方の工夫する問題について高い正答率が見られた。しかし、資料を活用するなどして、自分の考えを伝える問題では、課題がみられた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「B 書くこと」「C 読むこと」	
	努力が必要な問題	「A 話すこと・聞くこと」	
算数	全体的な傾向や特徴など	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことや立体の底面や側面に着目し、面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する問題について高い正答率が見られた。しかし、表やグラフから必要な数値を読み取って判断したり記述したりする問題では課題がみられた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「A 数と計算」「B 図形」	
	努力が必要な問題	「D データの活用」	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

#### 質問調査の結果分析



・生活習慣では、すべての項目において肯定的な意見が多く、特に睡眠や食事に関して、規則正しいバランスの良い習慣が身につけている。

・自尊感情では、「人の役に立つ人間になりたいと思う」について、特に肯定的な意見が多い。学校・学年行事を通して得られる達成感や成就感からつながっていることがうかがえる。

・学校での学習では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について肯定的な意見が多く、探究的な学びをテーマにした授業において、児童の学びに向かう力がついてきているようである。

・家庭等での学習では、いずれの質問項目においても全国平均を上回り、家庭学習の質と量の確保について、授業とのリンクを効果的に図ることができた。

・ICTの活用では、いずれの質問項目においても全国平均を上回り、ICT機器の文房具化について、発達段階に応じて、計画的、意図的な取組ができた。

・シビックプライドに関して、いずれの質問項目においても肯定的な意見が多い。今後も地域とともにある学校を教育の中心に据えて、連携・協働の取組を推進していく。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

・つまづきを早い段階で把握して克服につなげていくために、各教科における練習問題において、評価・改善を毎時間行い、共有する取組。

・タブレット端末の使用について、ノート機能、共同編集機能、話し合い活動での効率的・効果的な活用の推進。

・「わかる」、「できる」、「つながる」ための、ドリルアプリを活用した個別最適な学びの充実に向けた補充学習の取組。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の質や量の充実に向けて、個に応じた課題の工夫による、宿題のやり残し完全ゼロに向けての取組。

・スマホ・携帯電話の完全10時電源オフ100%を目指して、委員会活動を活用した定期的な啓発活動。

・「気軽に本、身近に読書」の定着に向けての、内読（家庭読書）充実のための図書館利用率向上の取組。